

農業融資財務分析基礎

解説編の利用にあたって

1. 試験問題は、弊社ホームページに掲載中の別ファイルをご利用下さい。
2. 解説に、2024年度の通信テキストの参照ページを記載していますが、今後、通信テキストの改訂により参照ページが変更になる可能性がありますので、ご注意ください。
3. 試験問題と解説は、試験実施日を基準としておりますので、勉強にあたっては、その後の「法令・規則・制度等」の改正、変更にご注意下さい。

照会先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-11

アグリスクエア新宿 9F

農林中金アカデミー研修企画部

TEL 03-6457-8926

目 次

	ページ	正答率
問1 経営体の種類	1	64.8%
問2 決算書の種類と青色申告	2	59.3%
問3 仕訳のルール	3	72.2%
問4 収入金額 (1)	4	70.4%
問5 収入金額 (2)	5	81.5%
問6 減価償却費の計算 (1)	6	85.2%
問7 減価償却費の計算 (2)	7	79.6%
問8 減価償却	8	57.4%
問9 修繕費	9	66.7%
問10 人件費	10	57.4%
問11 その他の経費	11	66.7%
問12 青色申告特別控除額	12	75.9%
問13 貸倒引当金	13	51.9%
問14 固定資産	14	63.0%
問15 買掛金, 未払金, 預り金	15	64.8%
問16 事業主勘定	16	70.4%
問17 元入金	17	22.2%
問18 個人農家の決算書 (1)	19	87.0%
問19 個人農家の決算書 (2)	20	85.2%
問20 個人農家の決算書 (3)	21	98.1%
問21 個人農家の決算書 (4)	22	98.1%
問22 個人農家の決算書 (5)	23	70.4%
問23 農業法人の決算書 (1)	26	79.6%
問24 農業法人の決算書 (2)	27	55.6%
問25 農業法人の決算書 (3)	28	83.3%
問26 農業法人の決算書 (4)	29	75.9%
問27 農業法人の決算書 (5)	30	46.3%
問28 農業法人の決算書 (6)	31	72.2%
問29 労働分配率の計算式	32	59.3%
問30 各種財務指標による分析	33	48.1%
問31 「勘定合って銭足らず」 (1)	34	74.1%
問32 「勘定合って銭足らず」 (2)	35	90.7%
問33 損益計算と収支計算 (1)	36	59.3%
問34 損益計算と収支計算 (2)	37	88.9%
問35 仕入と売上原価	38	70.4%
問36 在庫	39	44.4%
問37 経費	40	51.9%
問38 黒字倒産	41	85.2%
問39 取引にともなうお金のながれ	42	59.3%
問40 資金繰り	43	85.2%
問41 現預金増減の法則	44	40.7%
問42 個人事業主の貸借対照表 (1)	45	66.7%
問43 個人事業主の貸借対照表 (2)	46	66.7%
問44 資金貸借対照表	47	55.6%
問45 固定資金, 流動資金の運用と調達	48	75.9%
問46 設備資金の調達と計画	49	57.4%
問47 運転資金	50	63.0%
問48 営業運転資金	51	40.7%
問49 流動資金の運用と調達	53	70.4%
問50 財務指標での管理	54	74.1%

経営体の種類

- [問1] 経営体の種類に関する次の記述について、正しいものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。
- a. JAは、法人の一種である。
 - b. 個人で農業を営む者は1月1日から12月31日までの1年間の儲けを計算し、この儲けから法人税を計算して、翌年3月15日までに税務署に申告と納税を行う。
 - c. 法人とは、法的に人格を持った経営体をいい、その法人の代表者の名義で商売を行う。
- (1) 1つ
(2) 2つ
(3) 3つ

正解 (1)

正解率 64.8%



解説

a. JA（農業協同組合）は、法人の一種である。したがってa. は正しい。

（第1分冊8ページ【第1章1.経営体の種類】）

b. 個人で農業を営む者は1月1日から12月31日までの1年間の儲けを計算し、この儲けから所得税を計算して、翌年3月15日までに税務署に申告と納税を行う。「法人税」ではなく「所得税」が正しい。したがってb. は誤りである。

（第1分冊8ページ【第1章1.経営体の種類】）

c. 法人とは、法的に人格を持った経営体をいい、その法人の名義で商売を行う。したがってc. は誤りである。

（第1分冊8ページ【第1章1.経営体の種類】）

したがって正しいものは1つあるので、(1)が本問の正解である。

決算書の種類と青色申告

[問 2] 決算書の種類と青色申告に関する次の記述について、正しいものはいくつあるか、(1)～(3)の中から 1 つ選びなさい。

- a. 青色申告制度は、昭和 24 年に発表されたシャウプ勧告に基づき施行された制度である。
- b. 実際には帳簿を作っていなかったり、帳簿の内容に虚偽があったりすると、青色申告が取り消される。
- c. 帳簿を作成すれば自動的に青色申告の事業者になれるわけではなく、事前に申請する必要がある。

- (1) 1 つ
- (2) 2 つ
- (3) 3 つ

正解 (3)

正解率 59.3%



解 説

a. 青色申告制度は、昭和 24 年に発表されたシャウプ勧告に基づき施行された制度である。したがって a. は正しい。

(第 1 分冊 10 ページ【第 1 章 2. 決算書の種類と青色申告】)

b. 青色申告の事業者になっても、実際には帳簿を作っていなかったり、帳簿の内容に虚偽があったりすると、青色申告が取り消される。したがって b. は正しい。

(第 1 分冊 10 ページ【第 1 章 2. 決算書の種類と青色申告】)

c. 帳簿を作成すれば自動的に青色申告の事業者になれるわけではなく、事前に申請する必要がある。したがって c. は正しい。

(第 1 分冊 10 ページ【第 1 章 2. 決算書の種類と青色申告】)

したがって正しいものは 3 つあるので、(3) が本問の正解である。

仕 訳 の ル ー ル

【問 3】 以下の a～d の取引が生じた際、仕訳において貸方に計上するものとして正しいものはどれか、(1)～(3)の中から 1 つ選びなさい。

- a. 資産の増加
 - b. 負債の増加
 - c. 収益の発生
 - d. 費用の発生
- (1) a と c
 (2) b と c
 (3) b と d

正解 (2)

正解率 72.2%



解 説

仕訳のルールを整理すると、以下の表のとおりになる。

項目	借方	貸方
資産	増える	減る
負債	減る	増える
収益	減る	増える
費用	増える	減る

a～d をこれに当てはめた場合、

- a. 資産の増加は借方に計上する
- b. 負債の増加は貸方に計上する
- c. 収益の発生は貸方に計上する
- d. 費用の発生は借方に計上する

となり、b と c の 2 つが貸方に計上するものとなる。

したがって、(2) が本問の正解である。

(第 1 分冊 18 ページ【第 1 章 3. 簿記のルール】)

収入金額 (1)

[問4] 農業所得用の所得税青色申告決算書の損益計算書の①「販売金額」は、どのような基準によって計上されるか、次の(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

- (1) 出荷基準
- (2) 到着基準
- (3) 販売基準

正解 (3)

正解率 70.4%



解説

損益計算書の①「販売金額」は、農産物を販売した時に計上する販売基準が適用される。したがって (3) が本問の正解である。 (第1分冊 23 ページ【第2章 1. 収入金額】)

収入金額 (2)

〔問 5〕 農業所得用の所得税青色申告決算書の損益計算書の③「雑収入」に計上するものに該当しないものはどれか、次の(1)～(3)の中から 1 つ選びなさい。

- (1) JA からの事業分量配当金
- (2) 農地の貸付料
- (3) 出荷奨励金

正解 (2)

正解率 81.5%



解 説

(1) JA からの事業分量配当金は、雑収入に該当する。

(第 1 分冊 24 ページ【第 2 章 1. 収入金額】)

(2) 農地の貸付料は不動産所得に該当するので、雑収入の欄には記入しない。したがって (2) が本問の正解である。(第 1 分冊 25 ページ

【第 2 章 1. 収入金額】)

(3) 出荷奨励金は、雑収入に該当する。

(第 1 分冊 24 ページ【第 2 章 1. 収入金額】)

減価償却費の計算 (1)

[問 6] 取得価額 350,000 円, 取得時期・今年 9 月 20 日, 耐用年数 7 年, 償却方法・定額法で個人事業主が取得した耕うん機について, 1 年目の未償却残高と 2 年目の未償却残高の正しい組合せを 1 つ選びなさい(耐用年数 7 年の定額法償却率は 0.143)。なお, 減価償却費の計算で小数点以下の端数が生じた場合, 切上げ処理を行うこと。

- (1) 1 年目 333,316 円 2 年目 283,266 円
 (2) 1 年目 333,316 円 2 年目 299,950 円
 (3) 1 年目 337,487 円 2 年目 287,437 円

正解 (1)

正解率 85.2%



解 説

定額法は, 取得価額である 350,000 円に, 耐用年数ごとに定められた償却率をかけて, 毎年の減価償却費を計算する。本問の場合, 1 年目の減価償却費は,

$$350,000 \text{ 円} \times 0.143 \times 4 \text{ か月} \div 12 \text{ か月} = 16,684 \text{ 円}$$

$$\langle \text{未償却残高} \rangle 350,000 \text{ 円} - 16,684 \text{ 円} = 333,316 \text{ 円}$$

2 年目の減価償却費は,

$$350,000 \text{ 円} \times 0.143 = 50,050 \text{ 円}$$

$$\langle \text{未償却残高} \rangle 333,316 \text{ 円} - 50,050 \text{ 円} = 283,266 \text{ 円}$$

したがって, (1) が本問の正解である。

なお, 資産を月の途中で取得や譲渡, 取壊しなどをした場合, 取得や譲渡, 取壊しをした月を 1 か月として計算する(国税庁 HP 確定申告書等作成コーナー よくある質問 参照)。

[例] 9 月 20 日に取得して, 12 月まで引き続き使用している場合 ⇒ 4 か月として計算

(第 1 分冊 29 ~ 31 ページ 【第 2 章 3. 減価償却】)

減価償却費の計算（2）

[問 7] 個人事業主が令和 5 年 10 月 30 日にトラクター（法定耐用年数 7 年）を 2,000,000 円で購入した場合の令和 6 年中の減価償却費として正しいものを 1 つ選びなさい。なお、年の途中での除却・売却・休止はないものとし、償却方法は定率法、耐用年数 7 年の償却率は 0.286 とする。また、減価償却費の計算で小数点以下の端数が生じた場合、切上げ処理を行うこと。

- (1) 531,102 円
- (2) 544,735 円
- (3) 572,000 円

正解 (1)

正解率 79.6%

**解 説**

取得価額 2,000,000 円 × 償却率 0.286 = 1 年目の減価償却費 572,000 円

令和 5 年中に事業の用に供した期間：3 か月

令和 5 年の減価償却費 572,000 円 × 3 か月 ÷ 12 か月 = 143,000 円

未償却残高 2,000,000 円 - 143,000 円 = 1,857,000 円

令和 6 年の減価償却費 1,857,000 円 × 0.286 = 531,102 円

したがって、(1) が本問の正解である。

(第 1 分冊 31 ページ【第 2 章 3. 減価償却】)

減 価 償 却

【問 8】 減価償却に関する次の記述について、正しいものはいくつあるか、(1)～(3)の中から 1 つ選びなさい。

- a. 取得価額が 20 万円未満の一括償却資産は、4 年間で 1/4 ずつ減価償却することができる。
 - b. 青色申告の事業者が取得した取得価額が 30 万円未満の少額減価償却資産は、年間の合計が 300 万円までであれば、その全額を、その年の経費にすることができる。
 - c. 一括償却資産の特例や少額減価償却資産の特例は、貸付用の資産には適用できない。
- (1) 1 つ
 (2) 2 つ
 (3) 3 つ

正解 (2)

正解率 57.4%



解 説

- a. 取得価額が 20 万円未満の一括償却資産は、3 年間で 1/3 ずつ減価償却することができる。したがって a. は誤りである。(第 1 分冊 32 ページ【第 2 章 3. 減価償却】)
- b. 青色申告の事業者が取得した取得価額が 30 万円未満の少額減価償却資産は、年間の合計が 300 万円までであれば、その全額を、その年の経費にすることができる。したがって b. は正しい。(第 1 分冊 33 ページ【第 2 章 3. 減価償却】)
- c. 一括償却資産の特例や少額減価償却資産の特例は、貸付用の資産には適用できない。したがって c. は正しい。(第 1 分冊 33 ページ【第 2 章 3. 減価償却】)
- したがって正しいものは 2 つあるので、(2) が本問の正解である。

修 繕 費

[問 9] 修繕費に関する次の記述について、明らかに修繕費と認められるものはどれか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。なお、それぞれの支払金額は固定資産の前期末取得価額の10%相当額を超えているものとする。

- (1) 1,500,000 円を支払い、倉庫を豚舎に改造した。
- (2) 1,500,000 円を支払い、4階建ての建物に避難階段を取り付けた。
- (3) 1,500,000 円を支払い、精米機を移設した。

正解 (3)

正解率 66.7%

**解 説**

- (1) 用途変更のための模様替え、改造、改装に要した金額であり、明らかに資本的支出に該当する。(第1分冊 35～36 ページ【第2章 4. 修繕費】)
- (2) 物理的に付加した部分に係る金額であり、明らかに資本的支出に該当する。(第1分冊 35～36 ページ【第2章 4. 修繕費】)
- (3) 機械装置の移設に要した費用であり、明らかに修繕費に該当する。したがってこれが本問の正解である。(第1分冊 36 ページ【第2章 4. 修繕費】)

人 件 費

[問 10] 人件費に関する次の記述について、正しいものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

- a. 青色事業専従者の要件の1つである「生計が一緒である15歳以上の家族」の年齢は、その年の1月1日現在で判定する。
 - b. 白色申告の場合、専従者に対する給与は経費にできないが、給与があってもなくても、一人につき50万円(本人の配偶者である場合は86万円)を経費にすることができる。
 - c. 専従者給与を経費にするためには、給料の金額が、労務の対価として相当であると認められる金額でなければならない。
- (1) 1つ
(2) 2つ
(3) 3つ

正解 (2)

正解率 57.4%



解 説

a. 青色事業専従者の要件の1つである「生計が一緒である15歳以上の家族」の年齢は、その年の12月31日現在で判定する。したがってa. は誤りである。

(第1分冊39ページ【第2章5.人件費】)

b. 白色申告の場合、専従者に対する給与は経費にできないが、給与があってもなくても、一人につき50万円(本人の配偶者である場合は86万円)を経費にすることができる。したがってb. は正しい。

(第1分冊39ページ【第2章5.人件費】)

c. 専従者給与を経費にするためには、給料の金額が、労務の対価として相当であると認められる金額でなければならない。したがってc. は正しい。

(第1分冊39ページ【第2章5.人件費】)

したがって正しいものは2つあるので、(2)が本問の正解である。

そ の 他 の 経 費

[問 11] その他の経費のうち、租税公課として計上するのは次の取引のうちどれか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

- (1) 自宅の固定資産税 10,000 円を、郵便局で支払った。
- (2) 請求書を送る切手 180 円分を、郵便局で購入した。
- (3) 領収書に添付する収入印紙 200 円分を、郵便局で購入した。

正解 (3)

正解率 66.7%



解 説

(1) 自宅の固定資産税は、農業以外に関する経費のため、費用計上できない。

(第 1 分冊 40 ページ【第 2 章 6. その他の経費】)

(2) 切手は、一般的には「荷造運賃手数料」(または通信費)に分類される。

(第 1 分冊 40 ページ【第 2 章 6. その他の経費】)

(3) 収入印紙(印紙税)は、租税公課に分類される。したがってこれが本問の正解である。

(第 1 分冊 40 ページ【第 2 章 6. その他の経費】)

青色申告特別控除額

[問 12] 個人事業主が複式簿記の方法により帳簿を作成し、申告期限内に e-Tax (電子申告) にて所得税の確定申告を行った場合(貸借対照表と損益計算書を添付)、受けられる青色申告特別控除額は最大でいくらか、次の(1)～(3)の中から1つ選びなさい。なお、電子帳簿保存法による書類の保存は行っていないものとする。

- (1) 65 万円
- (2) 55 万円
- (3) 10 万円

正解 (1)

正解率 75.9%



解 説

個人事業主が以下の要件を満たした場合、最大で 65 万円の青色申告特別控除を受けることができる。

- ・複式簿記の方法により帳簿を作成すること
 - ・貸借対照表と損益計算書を添付した確定申告書を申告期限内に税務署に提出すること
 - ・e-Tax による申告(電子申告)または電子帳簿保存を行うこと
- したがって、(1) が本問の正解である。

(第 1 分冊 44 ～ 45 ページ【第 2 章 10. 青色申告特別控除】)

貸 倒 引 当 金

- [問 13] 貸倒引当金に関する次の記述について、正しいものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。
- a. 貸倒引当金の対象には、売掛金のほか、貸付金や未払金も含まれる。
 - b. 貸倒引当金に繰り入れた金額は、損益計算書にも記載され、農業所得の経費とされるが、実際に売掛金などが貸し倒れていないと、経費にできない。
 - c. 貸倒引当金は、青色申告を選択した事業者に認められた特典である。
- (1) 1つ
(2) 2つ
(3) 3つ

正解 (1)

正解率 51.9%



解 説

a. 貸倒引当金の対象には、売掛金のほか、貸付金や未収金も含まれる。未払金は対象外である。したがって a. は誤りである。

(第1分冊 51 ページ【第3章 2. 売掛金と貸倒引当金】)

b. 貸倒引当金に繰り入れた金額は、損益計算書にも記載され、農業所得の経費とされるが、実際にその売掛金などが貸し倒れていなくても経費にすることができる。したがって b. は誤りである。

(第1分冊 52 ページ【第3章 2. 売掛金と貸倒引当金】)

c. 貸倒引当金は、青色申告を選択した事業者に認められた特典である。したがって c. は正しい。

(第1分冊 52 ページ【第3章 2. 売掛金と貸倒引当金】)

したがって正しいものは1つあるので、(1)が本問の正解である。

固 定 資 産

[問 14] 固定資産に関する次の記述について、正しいものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

- a. 借地権は、無形固定資産、かつ非減価償却資産である。
- b. 取得価額 10 万円以上、かつ使用可能期間が 1 年未満の農機具は、経費ではなく固定資産になる。
- c. 固定資産の種類ごとに、年末までの減価償却費を控除した未償却残高を貸借対照表に記載することで、まだ経費になっていない固定資産がどれだけあるかを表す。

- (1) 1つ
- (2) 2つ
- (3) 3つ

正解 (2)

正解率 63.0%



解 説

a. 借地権は、無形固定資産、かつ非減価償却資産である。したがって a. は正しい。

(第 1 分冊 54 ページ【第 3 章 4. 固定資産】)

b. 取得価額 10 万円以上、かつ使用可能期間が 1 年以上の農機具は、経費ではなく固定資産になる。したがって b. は誤りである。 (第 1 分冊 53 ページ【第 3 章 4. 固定資産】)

c. 固定資産の種類ごとに、年末までの減価償却費を控除した未償却残高を貸借対照表に記載することで、まだ経費になっていない固定資産がどれだけあるかを表す。したがって c. は正しい。 (第 1 分冊 54 ページ【第 3 章 4. 固定資産】)

したがって正しいものは 2 つあるので、(2) が本問の正解である。

買掛金，未払金，預り金

[問 15] 買掛金，未払金，預り金に関する次の記述について，正しいものはいくつあるか，(1)～(3)の中から 1 つ選びなさい。

- a. 従業員の給与から源泉徴収した税金の勘定科目は，「預り金」である。
 - b. 一般的に，商品の代金の未払いは買掛金，経費の代金の未払いは未払金，と使い分けされている。
 - c. 源泉徴収の納期の特例では，7月から12月までに源泉徴収した金額は，翌年2月15日までに納付する必要がある。
- (1) 1つ
(2) 2つ
(3) 3つ

正解 (2)

正解率 64.8%



解 説

- a. 従業員の給与から源泉徴収した税金の勘定科目は，「預り金」である。したがって a. は正しい。
(第 1 分冊 56 ページ【第 3 章 7. 預り金】)
- b. 一般的に，商品の代金の未払いは買掛金，経費の代金の未払いは未払金，と使い分けされている。したがって b. は正しい。
(第 1 分冊 55 ページ【第 3 章 5. 買掛金，未払金】)
- c. 源泉徴収の納期の特例では，7月から12月までに源泉徴収した金額は，翌年1月20日までに納付する必要がある。したがって c. は誤りである。
(第 1 分冊 56 ページ【第 3 章 7. 預り金】)
- したがって正しいものは 2 つあるので，(2) が本問の正解である。

事 業 主 勘 定

[問 16] 次の事業主勘定を使った a～c の仕訳のうち、誤っているものはいくつあるか、(1)～(3)の中から 1 つ選びなさい。

- a. 事業用の現金 30,000 円を、プライベートな飲食に使った。
 (借方) 現 金 30,000 円 (貸方) 事業主借 30,000 円
- b. 個人用の普通預金 100,000 円を、事業用の現金補給のために引き出した。
 (借方) 普通預金 100,000 円 (貸方) 事業主借 100,000 円
- c. 個人用と事業用(負担割合 5 : 5)の電話料金合計 40,000 円が、事業用の普通預金から引き落とされた。
 (借方) 事業主貸 20,000 円 (貸方) 普通預金 40,000 円
 (借方) 通信費 20,000 円

- (1) 1 つ
 (2) 2 つ
 (3) 3 つ

正解 (1)

正解率 70.4%



解 説

a. プライベートな飲食は個人への貸しであると考え。よって事業主貸勘定が借方、現金勘定が貸方に来る。正しい仕訳は、

(借方) 事業主貸 30,000 円 (貸方) 現金 30,000 円

となる。したがって a. は誤りである。

(第 1 分冊 57 ページ【第 3 章 8. 事業主貸, 事業主借】)

b. 個人用の現預金を事業用のために引き出した場合は、個人からの借りであると考え。よって普通預金勘定が借方、事業主借勘定が貸方に来る。したがって b. は正しい仕訳である。

(第 1 分冊 57～58 ページ【第 3 章 8. 事業主貸, 事業主借】)

c. 電話料金の個人用と事業用の負担割合が 5 : 5 である場合、事業主貸勘定と通信費勘定が借方にそれぞれ 20,000 円ずつ、普通預金勘定 40,000 円が貸方に来る。したがって c. は正しい仕訳である。

(第 1 分冊 57 ページ【第 3 章 8. 事業主貸, 事業主借】)

したがって、誤っているものは 1 つあるので、(1) が本問の正解である。

元 入 金

[問 17] 元入金に関する次の記述について、正しいものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

- a. 当年の元入金は、前年の元入金に前年の所得と前年の事業主勘定を合計したものである。
 - b. 貸借対照表における、元入金の期首残高と期末残高は一致する。
 - c. 元金は、会社でいうところの資本金にあたるものである。
- (1) 1つ
(2) 2つ
(3) 3つ

正解 (3)

正解率 22.2%

**解 説**

a. 当年の元金は、前年の元入金に前年の所得と事業主勘定を合計したものである。したがって a. は正しい。
(第1分冊 59 ページ【第3章 9. 元入金】)

b. 貸借対照表における、元入金の期首残高と期末残高は一致する。したがって b. は正しい。
(第1分冊 58～59 ページ【第3章 9. 元入金】)

c. 元金は、会社でいうところの資本金にあたるものである。したがって c. は正しい。
(第1分冊 58 ページ【第3章 9. 元入金】)

したがって正しいものは3つあるので、(3)が本問の正解である。

個人農家の下記資料を基に、[問 18] ～ [問 22] に答えなさい。

収入金額	販売金額	8,900,000
	農産物の期首棚卸高	350,000
	農産物の期末棚卸高	320,000
	小 計	(①)
必要経費	租税公課	150,000
	種苗費	240,000
	肥料費	290,000
	農具費	120,000
	農薬・衛生費	310,000
	減価償却費	150,000
	利子割引料	21,000
	雑 費	239,000
	小 計	1,520,000
差引金額	(?)	
貸倒引当金 繰戻額	(②)	
専従者給与	2,919,000	
貸倒引当金 繰入額	66,000	
青色申告特別控除額	550,000	
所得金額	3,870,000	

資 産			負債・資本		
科 目	1月1日	12月31日	科 目	1月1日	12月31日
現 金	370,000	330,000	借入金	985,000	694,000
普通預金	1,550,000	1,430,000			
売掛金	1,000,000	1,200,000	貸倒引当金	55,000	66,000
農産物	(?)	(③)			
農機具等	850,000	990,000	事業主借		0
			元入金	3,080,000	3,080,000
事業主貸		3,990,000	(?)		(④)
合 計	4,120,000	8,260,000	合 計	4,120,000	(?)

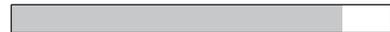
個人農家の決算書（1）

[問 18] ①に当てはまる金額として、正しいものを1つ選びなさい。

- (1) 8,230,000
- (2) 8,870,000
- (3) 8,930,000

正解 (2)

正解率 87.0%



解 説

農産物の期首棚卸高は収入金額からマイナスし、期末棚卸高は収入金額にプラスするため、本問では $8,900,000 \text{ 円} - 350,000 \text{ 円} + 320,000 \text{ 円} = 8,870,000 \text{ 円}$ と計算する。したがって、(2) が本問の正解である。

(第1分冊 27～28 ページ【第2章 2. 棚卸しと収穫基準】、66～67 ページ【第5章 I -1. 決算書分析の前に】)

個人農家の決算書（2）

[問 19] ②に当てはまる金額として、正しいものを1つ選びなさい。

- (1) 55,000
- (2) 66,000
- (3) 121,000

正解 (1)

正解率 85.2%



解 説

貸倒引当金繰戻額は、貸借対照表の1月1日の貸倒引当金の金額と一致する。したがって、(1)が本問の正解である。

(第1分冊51～52ページ【第3章2.売掛金と貸倒引当金】、67～68ページ【第5章I-1.決算書分析の前に】)

個人農家の決算書 (3)

[問 20] ③に当てはまる金額として、正しいものを1つ選びなさい。

- (1) 30,000
- (2) 320,000
- (3) 350,000

正解 (2)

正解率 98.1%



解 説

貸借対照表の12月31日の農産物の金額は、損益計算書の農産物の期末棚卸高と一致する。したがって、(2)が本問の正解である。

(第1分冊53ページ【第3章3.棚卸資産】、66,68ページ【第5章I-1.決算書分析の前に】)

個人農家の決算書 (4)

[問 21] ④に当てはまる金額として、正しいものを1つ選びなさい。

- (1) 3,870,000
- (2) 4,000,000
- (3) 4,420,000

正解 (3)

正解率 98.1%



解 説

資産の合計と負債・資本の合計は一致する。したがって、
 $8,260,000 - (694,000 + 66,000 + 3,080,000) = 4,420,000$ となるので、(3) が本問の正解である。なお、(④) の科目は「青色申告特別控除前の所得金額」であるので、損益計算書の「青色申告特別控除額+所得金額」でも計算できる。

$$550,000 + 3,870,000 = 4,420,000$$

(第1分冊 68 ページ【第5章 I -1. 決算書分析の前に】)

個人農家の決算書（5）

[問 22] この個人農家の決算書の分析として、正しいものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

- a. 現金預金対借入金比率を見ると、この個人農家の財務状態は前年に比べて悪化していると考えられる。
- b. 貸借対照表に建物の記載はないが、だからといって、この事業主の自宅が持家か借家かは判断できない。
- c. 事業主貸として3,990,000円が計上されているので、この金額が事業から家計に移っているといえる。

- (1) 1つ
- (2) 2つ
- (3) 3つ

正解 (2)

正解率 70.4%



解 説

a. 前年の現金預金対借入金比率： $(370,000 \text{ 円} + 1,550,000 \text{ 円}) \div 985,000 \text{ 円} \times 100 = 194.9\%$
 当年の現金預金対借入金比率： $(330,000 \text{ 円} + 1,430,000 \text{ 円}) \div 694,000 \text{ 円} \times 100 = 253.6\%$
 現金預金対借入金比率は大きいほど財務状態は良いと考えられるので、この個人農家の財務状態は前年に比べて良化していると考えられる。したがって a. は誤りである。

(第1分冊 50～51 ページ【第3章 1. 現金・預金】、71～72 ページ【第5章 I -2. 増減分析(3) 現金預金, 借入金, 利子割引料】)

b. 貸借対照表には、農業に関する資産と負債を記載するため、建物の記載がないからといって、自宅が持家か借家かは判断できない。したがって b. は正しい。

(第1分冊 15 ページ【第1章 2. 決算書の種類と青色申告】)

c. 事業主貸は事業から家計へ流れたお金、事業主借は家計から事業に流れたお金を意味する。したがって c. は正しい。

(第1分冊 74 ページ【第5章 I -2. 増減分析(7) 元入金, 事業主勘定】)

したがって正しいものは2つあるので、(2)が本問の正解である。

農業法人の下記資料を基に，[問 23] ～[問 28] に答えなさい。

貸借対照表
(令和 6 年 3 月 31 日時点) (単位：円)

資産の部		負債の部	
【流動資産】	【 3,980,000 】	【流動負債】	【 2,080,000 】
現金預金	1,950,000	買掛金	820,000
売掛金	1,400,000	未払金	710,000
農産物等	340,000	預り金	240,000
仕掛品	367,000	未払法人税等	310,000
(①)	△ 77,000		
【固定資産】	【 12,850,000 】	【固定負債】	【 1,750,000 】
(有形固定資産)	(12,850,000)	(②)	1,750,000
建 物	3,100,000		
農機具	690,000	負債の部 合計	3,830,000
果樹・牛馬等	550,000	純資産の部	
育成仮勘定	810,000	【資本金】	【 4,500,000 】
土 地	7,700,000	【利益剰余金】	【 8,500,000 】
		繰越利益	8,500,000
		純資産の部 合計	13,000,000
資産の部 合計	16,830,000	負債・純資産 合計	16,830,000

損益計算書

(自 令和 5 年 4 月 1 日 至 令和 6 年 3 月 31 日) (単位：円)

【売上高】		15,300,000
【売上原価】		
期首農産物棚卸高	380,000	
当期農業原価	<u>9,230,000</u>	
合 計	9,610,000	
期末農産物棚卸高	<u>340,000</u>	<u>9,270,000</u>
売上総利益		6,030,000
【販売費及び一般管理費】		<u>4,130,000</u>
営業利益		1,900,000
【営業外収益】		
貸倒引当金(③)	77,000	
雑収入	<u>26,000</u>	103,000
【営業外費用】		
支払利息	<u>84,000</u>	<u>84,000</u>
(④)利益		1,919,000
税引前当期純利益		1,919,000
法人税, 住民税及び事業税		<u>669,000</u>
当期純利益		<u>1,250,000</u>

株主資本等変動計算書

(自 令和 5 年 4 月 1 日 至 令和 6 年 3 月 31 日) (単位：円)

	資本金	資本準備金	利益剰余金		純資産合計
			利益準備金	繰越利益	
当期首残高	4,500,000	0	0	(⑤)	(?)
当期変動額					
剰余金の配当					
当期純利益				1,250,000	1,250,000
当期変動額合計	0	0	0	1,250,000	1,250,000
当期末残高	4,500,000	0	0	(?)	13,000,000

農業法人の決算書 (1)

[問 23] ①②に当てはまる語句として、正しい組合せを 1 つ選びなさい。

- (1) ① 短期借入金 ② 貸倒引当金
(2) ① 貸倒引当金 ② 長期借入金
(3) ① 貸付金 ② 長期借入金

正解 (2)

正解率 79.6%



解 説

流動資産で△が付くのは貸倒引当金，短期借入金は流動負債，長期借入金は固定負債である。したがって，(2) が本問の正解である。

(第 1 分冊 80 ページ【第 5 章 II -2. 決算書の読み方 (2) 貸借対照表】)

農業法人の決算書（2）

[問 24] ③に当てはまる語句として、正しいものを1つ選びなさい。

- (1) 収益
- (2) 繰入
- (3) 戻入

正解 (3)

正解率 55.6%

**解 説**

営業外収益に計上されるのは貸倒引当金「戻入」である。したがって、(3)が本問の正解である。 (第1分冊83ページ【第5章Ⅱ-2.決算書の読み方(3)損益計算書】)

農業法人の決算書（3）

[問 25] ④に当てはまる語句として、正しいものを1つ選びなさい。

- (1) 粗
- (2) 特別
- (3) 経常

正解 (3)

正解率 83.3%

**解 説**

営業利益に営業外収益をプラスし、営業外費用をマイナスした金額が、経常利益である。したがって、(3)が本問の正解である。

(第1分冊 83 ページ【第5章Ⅱ -2. 決算書の読み方 (3) 損益計算書】)

農業法人の決算書（4）

[問 26] ⑤に当てはまる金額として、正しいものを1つ選びなさい。

- (1) 7,250,000
- (2) 8,500,000
- (3) 13,000,000

正解 (1)

正解率 75.9%



解 説

株主資本等変動計算書の繰越利益の当期末残高は、貸借対照表の繰越利益の金額と一致する。繰越利益の当期末残高（ ? ）は8,500,000となるので、 $8,500,000 - \text{当期変動額} 1,250,000 = 7,250,000$ が繰越利益の当期首残高となる。したがって、(1)が本問の正解である。

(第1分冊 80～81 ページ【第5章Ⅱ-2. 決算書の読み方 (2) 貸借対照表】、85～86 ページ【第5章Ⅱ-2. 決算書の読み方 (4) 株主資本等変動計算書】)

農業法人の決算書（5）

[問 27] 流動比率として、正しいものを1つ選びなさい(小数第2位を四捨五入)。

- (1) 23.6%
- (2) 52.3%
- (3) 191.3%

正解 (3)

正解率 46.3%



解 説

流動比率は、流動資産÷流動負債×100(%)で計算する。本問では、3,980,000円÷2,080,000円×100(%)=191.34%と計算する。したがって、(3)が本問の正解である。

(第1分冊98ページ【第5章Ⅱ-4.各種財務指標による分析(2)安全性分析】)

農業法人の決算書（6）

[問 28] 自己資本比率として、正しいものを1つ選びなさい(小数第2位を四捨五入)。

- (1) 50.5%
- (2) 52.9%
- (3) 77.2%

正解 (3)

正解率 72.2%



解 説

自己資本比率は、自己資本（純資産）÷総資本（負債＋純資産）×100（％）で計算する。本問では、13,000,000 円÷16,830,000 円×100（％）＝77.24％と計算する。したがって、(3)が本問の正解である。

（第1分冊99ページ【第5章Ⅱ-4.各種財務指標による分析（2）安全性分析】）

労働分配率の計算式

[問 29] 労働分配率の計算式として、正しい組合せを1つ選びなさい。

$$\text{労働分配率} = (A) \div (B) \times 100 (\%)$$

- (1) A 人件費 B 付加価値額
(2) A 付加価値額 B 従業員数
(3) A 人件費 B 従業員数

正解 (1)

正解率 59.3%



解 説

付加価値額／従業員数は労働生産性を示す算式、人件費／従業員数は一人当たり人件費を示す算式である。「労働分配率＝人件費／付加価値額×100(%)」が正しい。したがって、(1)が本問の正解である。

(第1分冊101ページ【第5章Ⅱ-4.各種財務指標による分析(3)生産性分析】)

各種財務指標による分析

[問30] 各種財務指標による分析に関する次の記述について、正しいものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

- a. 流動比率は、100%以下が理想といわれている。
 - b. 当座比率は、100%以上が理想といわれている。
 - c. 自己資本比率は、50%以上を目指すべきとされている。
- (1) 1つ
(2) 2つ
(3) 3つ

正解 (2)

正解率 48.1%



解 説

a. 流動比率は、150%以上が理想といわれている。したがってa. は誤りである。

(第1分冊98ページ【第5章Ⅱ-4.各種財務指標による分析(2)安全性分析】)

b. 当座比率は、100%以上が理想といわれている。したがってb. は正しい。

(第1分冊99ページ【第5章Ⅱ-4.各種財務指標による分析(2)安全性分析】)

c. 自己資本比率は、50%以上を目指すべきとされている。したがってc. は正しい。

(第1分冊99ページ【第5章Ⅱ-4.各種財務指標による分析(2)安全性分析】)

したがって正しいものは2つあるので、(2)が本問の正解である。

「勘定合って銭足らず」(1)

[問 31] 資金繰りでよく出てくる言葉である「勘定合って銭足らず」に関する次の記述について、誤っているものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

- a. 現金主義で収益と費用を計上し利益が出ている場合は、その利益が大きければ大きいほど資金繰りが苦しい。
- b. 信用経済が中心となり決済方法が掛けになったことから、損益と収支にズレが生じた。
- c. 「勘定合って銭足らず」における「勘定」とは利益(所得)を指し、「銭」とはお金のことを指す。

- (1) 1つ
- (2) 2つ
- (3) 3つ

正解 (1)

正解率 74.1%



解 説

a. 現金主義による収益と費用には現金の裏付けがあるため、利益が大きければ大きいほど、手元に残る現金が多いことを意味しており、資金繰りに余裕がある。したがって a. は誤りである。
(第2分冊5～6ページ【第1章1.「勘定合って銭足らず」】)

b. 信用経済のもとでは、原材料を購入したり、商品を仕入れたりした場合の決済方法は掛けによるのが普通であり、その結果タイムラグが生じる。したがって b. は正しい。

(第2分冊5ページ【第1章1.「勘定合って銭足らず」】)

c. 「勘定合って銭足らず」における「勘定」とは利益(所得)を指し、「銭」とはお金のことを指す。したがって c. は正しい。

(第2分冊4ページ【第1章1.「勘定合って銭足らず」】)

したがって誤っているものは1つあるので、(1)が本問の正解である。

「勘定合って銭足らず」(2)

〔問 32〕 「勘定合って銭足らず」に関する次の記述について、営業の過程で資金が不足するものを、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。なお、各記述はそれぞれ独立したものであり、この記述のほかに取引はないものとする。また、令和6年9月20日取引開始前の現預金残高は30万円である。

- (1) 令和6年9月20日に商品26万円を掛けで仕入れ(決済日同年10月31日)、この商品を同年10月10日に32万円で掛け売りした(決済日同年11月29日)。
- (2) 令和6年9月20日に商品31万円を掛けで仕入れ(決済日同年10月31日)、この商品を同年10月20日に37万円で現金販売した。
- (3) 令和6年9月20日に商品32万円を掛けで仕入れ(決済日同年10月31日)、この商品を同年10月20日に38万円で掛け売りした(決済日同年11月29日)。

正解 (3)

正解率 90.7%



解 説

- (1) 令和6年10月10日に売上32万円が計上され、この売上の入金は同年11月29日であるが、同年10月31日の26万円の支払には現預金が充てられるので、資金が不足することはない。
(第2分冊16～18ページ【第1章2.損益計算と収支計算のズレ(1)商品を仕入れ、売り上げたケース④掛けまたは手形で仕入れ、掛けまたは手形で売り上げたケース】)
- (2) 令和6年10月20日に37万円が現金入金されるため、同年10月31日の31万円の支払に充てられる資金は有しており、資金が不足することはない。
(第2分冊14ページ【第1章2.損益計算と収支計算のズレ(1)商品を仕入れ、売り上げたケース③掛けまたは手形で仕入れ、現金売上のケース】)
- (3) 令和6年10月20日に売上38万円が計上されるが、この売上の入金は同年11月29日であり、同年10月31日の32万円の支払には、現預金30万円を充てただけでは足りず、資金が不足する。したがって、これが本問の正解である。
(第2分冊16～18ページ【第1章2.損益計算と収支計算のズレ(1)商品を仕入れ、売り上げたケース④掛けまたは手形で仕入れ、掛けまたは手形で売り上げたケース】)

損益計算と収支計算 (1)

【問 33】 損益計算と収支計算に関する次の記述について、誤っているものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

- a. 商品を現金で仕入れ、この商品を掛けて販売した場合、損益計算と収支計算は一致せず、「勘定合って銭足らず」の状態になる。
- b. 期末に未販売農産物が70,000円(販売価格)発生していた場合、収支計算上70,000円のマイナスとなる。
- c. 前期から繰り越された未販売農産物が40,000円(販売価格)、当期末に35,000円(販売価格)の未販売農産物が発生している。このとき前期の未販売農産物を含めた当期の実際の売上が350,000円だった場合の当期利益は、355,000円となる。なお、売上原価については考慮しなくてよい。

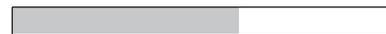
(1) 1つ

(2) 2つ

(3) 3つ

正解 (1)

正解率 59.3%



解 説

a. 商品を現金で仕入れ、この商品を掛けて販売した場合、損益計算と収支計算は一致せず、「勘定合って銭足らず」の状態になってしまう。したがって a. は正しい。

(第2分冊 8～10 ページ【第1章 2. 損益計算と収支計算のズレ (1) 商品を仕入れ、売り上げたケース②現金で仕入れ、売上が掛けまたは手形のケース】)

b. 期末に未販売農産物が発生していた場合、その販売価格が売上高に加算されるが、収支計算上はまだ販売されていないので、その金額分マイナスとなる。したがって b. は正しい。

(第2分冊 11～14 ページ【第1章 2. 損益計算と収支計算のズレ (1) 商品を仕入れ、売り上げたケース② 収穫済みの未販売農産物があるケース】)

c. 前期から繰り越された未販売農産物が40,000円(販売価格)、当期末に35,000円(販売価格)の未販売農産物が発生している。このとき前期の未販売農産物を含めた当期の実際の売上が350,000円だった場合の当期利益は、(実際の売上)350,000円 - (期首未販売農産物)40,000円 + (期末未販売農産物)35,000円 = (当期利益)345,000円となる。したがって c. は誤りである。

(第2分冊 11～14 ページ【第1章 2. 損益計算と収支計算のズレ (1) 商品を仕入れ、売り上げたケース② 収穫済みの未販売農産物があるケース】)

したがって、誤っているものは1つあるので、(1)が本問の正解である。

損益計算と収支計算 (2)

【問 34】 次の①～⑤の取引を行った結果、現預金の月末残高として正しいものはどれか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい(現預金の月初残高 350,000 円とする)。

- ① 商品を 120,000 円で仕入れ、代金は現金で支払った。
 - ② 商品を 170,000 円で売り上げ、代金は掛けとした。
 - ③ 以前受け取っていた受取手形 220,000 円が決済され、普通預金に入金された。
 - ④ 以前振り出していた支払手形 180,000 円が決済され、当座預金から引き落とされた。
 - ⑤ 月次決算において、減価償却費 45,000 円を計上した。
- (1) 225,000 円
 (2) 270,000 円
 (3) 315,000 円

正解 (2)

正解率 88.9%



解 説

- ① 代金を現金で支払っているため、現預金は 120,000 円減少している。
 (第 2 分冊 8～10 ページ【第 1 章 2. 損益計算と収支計算のズレ (1) 商品を仕入れ、売り上げたケース②現金で仕入れ、売上が掛けまたは手形のケース】)
- ② 代金は掛けとしているため、現預金の増加はない。
 (第 2 分冊 8～10 ページ【第 1 章 2. 損益計算と収支計算のズレ (1) 商品を仕入れ、売り上げたケース②現金で仕入れ、売上が掛けまたは手形のケース】)
- ③ 受取手形が決済され普通預金に入金されたため、現預金が 220,000 円増加している。
 (第 2 分冊 16～18 ページ【第 1 章 2. 損益計算と収支計算のズレ (1) 商品を仕入れ、売り上げたケース④掛けまたは手形で仕入れ、掛けまたは手形で売り上げたケース】)
- ④ 支払手形 180,000 円が決済され、当座預金から引き落とされたため、現預金は減少している。
 (第 2 分冊 16～18 ページ【第 1 章 2. 損益計算と収支計算のズレ (1) 商品を仕入れ、売り上げたケース④掛けまたは手形で仕入れ、掛けまたは手形で売り上げたケース】)
- ⑤ 減価償却費 45,000 円に資金の裏付けはないため、現預金の減少はない。
 (第 2 分冊 30～31 ページ【第 1 章 2. 損益計算と収支計算のズレ (3) 経費における時間的なズレ②減価償却費】)
- (月初残高) 350,000 円 - ① 120,000 円 + ③ 220,000 円 - ④ 180,000 円 = 270,000 円
 したがって、(2) が本問の正解である。

仕 入 と 売 上 原 価

[問 35] 仕入と売上原価に関する次の記述について、正しいものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。なお、本問に記載のない事項は一切考慮しなくてよい。

- a. 期首の在庫(すべて当期に販売)の金額よりも、期末の在庫の金額が小さい場合は資金が減少する。
- b. 仕入単価と売価が同じ場合、前年から繰り越された商品が売れても、利益率は変わらない。
- c. 期首棚卸高 24,000 円、当期仕入高 28,000 円、期末棚卸高 21,000 円、原価値入率(※)は期を通して 20% で一定であった場合、資金は 2,000 円増加する。なお、本問は農産物以外の取引であり、売上および仕入はすべて現金で決済されるものとする。

(※)原価値入率 = (売上高 - 売上原価) ÷ 売上原価 とする。

- (1) 1つ
- (2) 2つ
- (3) 3つ

正解 (1)

正解率 70.4%



解 説

a. 期首の在庫の減少(販売)により資金は増加し、その資金の増加は期末の在庫に係る資金負担の増加を上回るため、資金は増加する。したがって a. は誤りである。

(第1分冊 26～29 ページ【第2章 2. 棚卸しと収穫基準】、第2分冊 24～27 ページ【第1章 2. 損益計算と収支計算のズレ (2) 仕入 ≠ 売上原価②在庫が発生するケース、③残っていた在庫が減少するケース】)

b. 在庫が減ると、その分お金は増えるが、利益率には影響しない。したがって b. は正しい。

(第2分冊 26～27 ページ【第1章 2. 損益計算と収支計算のズレ (2) 仕入 ≠ 売上原価③残っていた在庫が減少するケース】)

c. 農産物以外の取引なので、当期の売上原価は、

期首棚卸高 24,000 円 + 当期仕入高 28,000 円 - 期末棚卸高 21,000 円 = 31,000 円
となり、値入率が 20% であるため売上高は、

売上原価 31,000 円 + 31,000 円 × 20% = 37,200 円

となる。当期の売上および仕入はすべて現金で決済されるため、資金の増加額は、

売上高 37,200 円 - 仕入高 28,000 円 = 9,200 円

となる。したがって c. は誤りである。

(第1分冊 26～29 ページ【第2章 2. 棚卸しと収穫基準】、第2分冊 26～27 ページ【第1章 2. 損益計算と収支計算のズレ (2) 仕入 ≠ 売上原価③残っていた在庫が減少するケース】)

したがって正しいものは 1 つあるので、(1) が本問の正解である。

在 庫

[問 36] 在庫に関する次の記述について、正しいものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

- a. 仕入、売上ともすべて現金取引とした場合、在庫が発生しなければ、損益計算の利益と収支計算の収支が一致する。
- b. 収穫基準が適用される米・麦・いも類の未販売農作物については、会計上、在庫として認識する。
- c. 仕入れた商品が売れ残った場合、(売上原価－仕入)に相当する在庫が増えることになる。

- (1) 1つ
- (2) 2つ
- (3) 3つ

正解 (1)

正解率 44.4%



解 説

a. 仕入、売上ともすべて現金取引とした場合、在庫が発生しなければ、損益計算の利益と収支計算の収支が一致する。したがって a. は正しい。

(第2分冊 23～24 ページ【第1章 2. 損益計算と収支計算のズレ (2) 仕入≠売上原価① 通常のケース】)

b. 収穫基準が適用される米・麦・いも類の未販売農作物については、会計上、在庫として認識するのではなく、実質的な売掛金として認識する。したがって b. は誤りである。

(第2分冊 27 ページ【第1章 2. 損益計算と収支計算のズレ (2) 仕入≠売上原価】)

c. 仕入れた商品が売れ残った場合、(仕入－売上原価)に相当する在庫が増えることになる。したがって c. は誤りである。

(第2分冊 22～23 ページ【第1章 2. 損益計算と収支計算のズレ (2) 仕入≠売上原価】)
したがって正しいものは1つあるので、(1)が本問の正解である。

経 費

[問 37] 経費に関する次の記述について、正しいものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

- a. 経費の計上時期とその支出の時期との間にズレが生じる主な原因の1つに、引当金の計上がある。
- b. 種苗費，種付料，素畜費，肥料，農薬などのうち育成中の果樹や牛馬に関するものがある場合は，それらは経費ではなく資産計上する。
- c. 事業用の軽自動車を180万円で購入し現金で支払った場合，経費ではなく資産計上するが，その後において，あらためて，お金の支出をともなわない経費（減価償却費）として計上される。

- (1) 1つ
- (2) 2つ
- (3) 3つ

正解 (3)

正解率 51.9%



解 説

a. 経費の計上時期とその支出の時期との間にズレが生じる主な原因の1つに，引当金の計上がある。したがって a. は正しい。

(第2分冊28ページ【第1章2.損益計算と収支計算のズレ(3)経費における時間的なズレ】)

b. 種苗費，種付料，素畜費，肥料，農薬などのうち育成中の果樹や牛馬に関するものがある場合は，それらは経費ではなく資産計上する。したがって b. は正しい。

(第2分冊31ページ【第1章2.損益計算と収支計算のズレ(3)経費における時間的なズレ②減価償却費】)

c. 事業用の軽自動車を180万円で購入し現金で支払った場合，経費ではなく資産計上するが，その後において，あらためて，お金の支出をともなわない経費（減価償却費）として計上される。したがって c. は正しい。

(第2分冊30～31ページ【第1章2.損益計算と収支計算のズレ(3)経費における時間的なズレ②減価償却費】)

したがって正しいものは3つあるので，(3)が本問の正解である。

黒 字 倒 産

[問 38] 黒字倒産について述べた以下の文章の [A]～[C] に当てはまる語句として、正しい組合せはどれか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

黒字倒産とは、[A] 計算上は利益が出ているにもかかわらず、[B] 計算上は赤字となり、経営が追い込まれついには倒産してしまうことをいう。このことから [C] をおろそかにすれば、経営は簡単に破たんしてしまうといえる。

- (1) A：損益 B：収支 C：利益追求
 (2) A：収支 B：損益 C：資金繰り
 (3) A：損益 B：収支 C：資金繰り

正解 (3)

正解率 85.2%



解 説

黒字倒産とは、損益計算上は利益が出ている（黒字）にもかかわらず、収支計算上は赤字となり、経営が追い込まれついには倒産してしまうことをいう。このことから資金繰りをおろそかにすれば、経営は簡単に破たんしてしまうといえる。

したがって、正しい組合せは (3) であり、これが本問の正解である。

(第 2 分冊 33 ページ【第 1 章 2. 損益通算と収支計算のズレ (4) 黒字倒産とは】)

取引にともなうお金のながれ

[問 39] 次の①～④の取引で利益と収支が一致するのは、②の取引から何か月後か、正しいものを1つ選びなさい。

- ① 商品 70,000 円を掛けで仕入れた。
 - ② ①の商品を 1 か月後に 90,000 円で掛け売りした。
 - ③ ①の買掛金は、仕入れてから 1.5 か月後に 2 か月サイトの手形で支払った。
 - ④ ②の売掛金は、売り上げてから 2 か月後に 2 か月サイトの手形で回収した。
- (1) 3 か月後
 (2) 4 か月後
 (3) 5 か月後

正解 (2)

正解率 59.3%



解 説

商品を仕入れてから 3.5 か月後（買掛金サイト 1.5 か月 + 支払手形サイト 2 か月）に支払手形 70,000 円が決済され（収支▲ 70,000 円），それからさらに 1.5 か月後，つまり商品を仕入れてから 5 か月後（在庫期間 1 か月 + 売掛金サイト 2 か月 + 受取手形サイト 2 か月）に受取手形 90,000 円が決済され（収支+ 90,000 円），利益と収支が一致する。問題は「②の取引から何か月後か」であり在庫期間を含んでいないので，4 か月後が正解となる。したがって，(2) が本問の正解である。

（第 2 分冊 36 ～ 38 ページ【第 1 章 2. 損益計算と収支計算のズレ (5) 取引にともなうお金のながれ】）

資 金 繰 り

- [問 40] 資金繰りに関する次の記述について、誤っているものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。
- a. ある時点でお金の「出」が「入り」を上回ると予想された場合、「出」を早めたり「入り」を遅らせることにより「入り」を「出」より上回らせることができる。
 - b. 資金繰りに失敗し経営破綻する会社であっても、業績が悪いとは限らない。
 - c. 資金繰りとは、その内容により「目先のお金の確実なやりくり」と「将来を見通した、計画的な、資金の運用と調達」に分けることができる。
- (1) 1つ
(2) 2つ
(3) 3つ

正解 (1)

正解率 85.2%



解 説

- a. ある時点でお金の「出」が「入り」を上回ると予想された場合は、お金の「出」を少なくしたり、「入り」を大きくする以外に、「出」を遅らせたり「入り」である入金を早めることにより「入り」を「出」より上回らせることもできる。したがって a. は誤りである。
(第2分冊 43 ページ【第1章 3. あらためて、資金繰りとは (1) 「資金繰り」は、お金のやりくり】)
- b. たとえ業績が良い会社であっても、資金が足りなくなれば、たちまち倒産へと追い込まれる。したがって b. は正しい。
(第2分冊 43～44 ページ【第1章 3. あらためて、資金繰りとは (2) なぜ資金繰りは必要か】)
- c. 資金繰りとは、その内容により「目先のお金の確実なやりくり」と「将来を見通した、計画的な、資金の運用と調達」に分けることができる。したがって c. は正しい。
(第2分冊 44 ページ【第1章 3. あらためて、資金繰りとは (3) 資金繰りの考え方】)
したがって誤っているものは1つあるので、(1) が本問の正解である。

現預金増減の法則

[問41] 資金繰りを考えるうえで考慮される現預金増減の法則に関する次の記述について、現預金の減少として捉えるものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

- a. 売掛金が増加した。
 - b. 支払手形が減少した。
 - c. 減価償却費が増加した。
- (1) 1つ
(2) 2つ
(3) 3つ

正解 (2)

正解率 40.7%



解 説

a. 現預金増減の法則においては、売掛金の増加は現預金の減少として捉える。

(第2分冊49ページ【第2章1.資金繰りには、一定の法則がある】)

b. 支払手形の減少は現預金の減少として捉える。

(第2分冊49ページ【第2章1.資金繰りには、一定の法則がある】)

c. 減価償却費は現金支出がともなわない費用であり、結果として現金を内部留保する効果がある。したがって減価償却費の増加は現預金の増加として捉える。

(第2分冊67～69ページ【第2章3.固定資金の運用と調達バランス(2)設備資金の調達③減価償却費】)

したがって現預金の減少として捉えるものは2つあるので、(2)が本問の正解である。

個人事業主の貸借対照表 (1)

[問 42] 個人事業主の貸借対照表に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 元入金と負債の区別は、そのお金を調達している先が、事業主本人からか、それ以外からか、ということである。
- (2) 他人資本は、事業主以外の第三者から調達した現預金を意味している。
- (3) 売掛金、受取手形、農産物等が増加するということは、お金の運用先が増え、手元の現預金も増加するということを意味する。

正解 (3)

正解率 66.7%

**解 説**

(1) 元入金と負債の区別は、そのお金を調達している先が、事業主本人からか、それ以外からか、ということである。したがって (1) は正しい。

(第2分冊 54 ページ【第2章 2. 資金には性質がある (1) 資金の運用と調達】)

(2) 他人資本は、事業主以外の第三者から調達した現預金を意味している。したがって (2) は正しい。

(第2分冊 54 ページ【第2章 2. 資金には性質がある (1) 資金の運用と調達】)

(3) 売掛金、受取手形、農産物等が増加するということは、お金の運用先が増え、手元の現預金が減少するということを意味する。したがって (3) は誤りであり、これが本問の正解である。

(第2分冊 53 ページ【第2章 2. 資金には性質がある (1) 資金の運用と調達】)

個人事業主の貸借対照表 (2)

[問 43] 個人事業主の貸借対照表に関する次の記述について、正しいものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

- a. 流動資産とは短期間に現預金になる資産、固定資産とは現預金になるのに長い時間がかかる資産といえる。
 - b. 貸借対照表の借方はお金の調達源泉を表し、貸方はお金の運用形態を表すものである。
 - c. 事業主貸は「事業主への貸し」と捉えられ、事業主借は「事業主からの借り」と捉えられるが、両者とも最終的には元入金に集約されることになる。
- (1) 1つ
(2) 2つ
(3) 3つ

正解 (2)

正解率 66.7%



解 説

a. 流動資産とは短期間に現預金になる資産、固定資産とは現預金になるのに長い時間がかかる資産といえる。したがって a. は正しい。

(第2分冊 56 ページ【第2章 2. 資金には性質がある (2) 流動と固定の区分】)

b. 貸借対照表の貸方はお金の調達源泉を表し、借方はお金の運用形態を表すものである。したがって b. は誤りである。

(第1分冊 16 ページ【第1章 3. 簿記のルール】、第2分冊 53～54 ページ【第2章 2. 資金には性質がある (1) 資金の運用と調達】)

c. 事業主貸は「事業主への貸し」と捉えられ、事業主借は「事業主からの借り」と捉えられるが、両者とも最終的には元入金に集約されることになる。したがって c. は正しい。

(第2分冊 55 ページ【第2章 2. 資金には性質がある (1) 資金の運用と調達】)

したがって正しいものは2つあるので、(2)が本問の正解である。

資 金 貸 借 対 照 表

[問 44] 資金貸借対照表において、次のうち、流動資金の調達に該当する勘定科目はいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

- a. 元入金
 - b. 貸倒引当金
 - c. 長期借入金
- (1) 0
(2) 1つ
(3) 2つ

正解 (2)

正解率 55.6%

**解 説**

元入金、長期借入金は固定資金の調達に該当し、貸倒引当金は流動資金の調達に該当する。したがって流動資金の調達に該当するものは1つあるので、(2)が本問の正解である。

(第2分冊 58～60 ページ【第2章 2. 資金には性質がある (4) 流動資金と固定資金】)

固定資金，流動資金の運用と調達

[問 45] 固定資金，流動資金の運用と調達についての説明として，誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 資金繰りの観点からは，「固定資金の運用 > 固定資金の調達」となっていることが望ましい。
- (2) 固定資金に余裕がある場合は，流動資金の世界に，固定資金の余裕資金が流れ込んでくる。
- (3) 固定資金でまかないきれない部分の金額は，結果として，流動資金によってまかなわれることになる。

正解 (1)

正解率 75.9%



解 説

(1) 資金繰りの観点からは「固定資金の運用 < 固定資金の調達」となっていることが望ましい。したがって (1) は誤りであり，これが本問の正解である。

(第 2 分冊 62 ～ 63 ページ【第 2 章 3. 固定資金の運用と調達のバランス (1) 資金貸借対照表から運用と調達のバランスをチェック】)

(2) 固定資金に余裕がある場合は，流動資金の世界に，固定資金の余裕資金が流れ込んでくる。したがって (2) は正しい。

(第 2 分冊 63 ページ【第 2 章 3. 固定資金の運用と調達のバランス (1) 資金貸借対照表から運用と調達のバランスをチェック】)

(3) 固定資金でまかないきれない部分の金額は，結果として，流動資金によってまかなわれることになる。したがって (3) は正しい。

(第 2 分冊 64 ページ【第 2 章 3. 固定資金の運用と調達のバランス (1) 資金貸借対照表から運用と調達のバランスをチェック】)

設備資金の調達と計画

[問 46] 設備資金の調達と計画に関する次の記述について、正しいものはいくつあるか、(1)～(3)の中から 1つ選びなさい。

- a. 個人事業主の場合において、年の途中における「元入金」の増加はできず、あくまで「事業主貸」として処理する。
 - b. 留保利益と減価償却費の範囲内での設備投資であれば、少なくとも、固定資金が不足することはない。
 - c. 設備資金に充てる固定資金の不足解消のために遊休資産を売却し、その売却資金を充当するのは資金不足解消の手立てとなりうる。
- (1) 1つ
(2) 2つ
(3) 3つ

正解 (2)

正解率 57.4%



解 説

a. 個人事業主の場合において、年の途中における「元入金」の増加はできず、あくまで「事業主借」として処理する。したがって a. は誤りである。

(第 2 分冊 66～67 ページ【第 2 章 3. 固定資金の運用と調達のバランス (2) 設備資金の調達②資本 (元入金) による調達】)

b. 留保利益と減価償却費の範囲内での設備投資であれば、少なくとも、固定資金が不足することはない。したがって b. は正しい。

(第 2 分冊 69 ページ【第 2 章 3. 固定資金の運用と調達のバランス (2) 設備資金の調達③減価償却費】)

c. 設備資金に充てる固定資金の不足解消のために遊休資産を売却し、その売却資金を充当するのは資金不足解消の手立てとなりうる。したがって c. は正しい。

(第 2 分冊 65 ページ【第 2 章 3. 固定資金の運用と調達のバランス (2) 設備資金の調達①固定資産のリストラ】)

したがって正しいものは 2 つあるので、(2) が本問の正解である。

運 転 資 金

【問 47】 運転資金に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 運転資金は、「流動資産(売上債権+棚卸資産)－流動負債(仕入債務)」で表すことができる。
- (2) 未成熟の果樹・育成中の牛馬等は、棚卸資産からいったん固定資産に振り替えられ、結果として減価償却の手続によって資金化されていく。
- (3) 営業運転資金とは、そのビジネスの営業に直接関係のある資金の調達金額が、その運用金額よりも大きい場合の、その余剰資金をいう。

正解 (3)

正解率 63.0%



解 説

(1) 運転資金は「流動資産(売上債権+棚卸資産)－流動負債(仕入債務)」で表すことができる。したがって(1)は正しい。

(第2分冊74ページ【第2章4.流動資金の運用と調達のバランス(1)流動資金の中身】)

(2) 未成熟の果樹・育成中の牛馬等は、棚卸資産からいったん固定資産に振り替えられ、結果として減価償却の手続によって資金化されていく。したがって(2)は正しい。

(第2分冊74ページ【第2章4.流動資金の運用と調達のバランス(1)流動資金の中身】)

(3) 営業運転資金とは、そのビジネスの営業に直接関係のある資金の運用金額が、その調達金額よりも大きくなっている場合の、その不足資金をいう。したがって(3)は誤りであり、これが本問の正解である。

(第2分冊76ページ【第2章4.流動資金の運用と調達のバランス(2)営業運転資金】)

営業運転資金

[問 48] 営業運転資金に関する下記の図に関する説明について、正しいものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

売掛金 1,550,000 円	買掛金 700,000 円
棚卸資産 350,000 円	

- a. 売掛金 1,550,000 円のうち、1,200,000 円分が手形で回収されれば、営業運転資金の不足は解消する。
- b. 売掛金 1,550,000 円のうち、1,000,000 円分を現金販売できていれば、営業運転資金が不足することはなかった。
- c. 売掛金・棚卸資産の合計と、買掛金との差額は営業運転資金の不足分であるから、何らかの方法で調達しなければならない。
- (1) 1つ
(2) 2つ
(3) 3つ

正解 (1)

正解率 40.7%



解 説

a. 売掛金 1,550,000 円のうち、1,200,000 円分が手形で回収されたとしても資金の流入はなく、現金預金以外の流動資産として残ることから、営業運転資金は何らの変化もない。したがって a. は誤りである。

(第 2 分冊 73～77 ページ【第 2 章 4. 流動資金の運用と調達のバランス】)

b. 売掛金 1,550,000 円のうち、1,000,000 円分を現金販売できていれば、売掛金は 550,000 円となる。その場合、営業運転資金は 200,000 円 (= 売掛金 550,000 円 + 棚卸資産 350,000 円 - 買掛金 700,000 円) 不足する。したがって b. は誤りである。

(第 2 分冊 73～77 ページ【第 2 章 4. 流動資金の運用と調達のバランス】)

c. 営業運転資金の不足分は 1,200,000 円 (= 売掛金 1,550,000 円 + 棚卸資産 350,000 円 - 買

掛金 700,000 円) であるから, 何らかの方法で調達しなければ, 資金ショートが発生することが考えられる。したがって c. は正しい。なお, 借入金による調達も一つの方法だが, 安易な借入金による調達は, かえって資金繰りの悪化を招くおそれがある。

(第2分冊 73～77 ページ【第2章 4. 流動資金の運用と調達のバランス】)

したがって正しいものは1つあるので, (1) が本問の正解である。

流動資金の運用と調達

[問 49] 流動資金の運用と調達に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 手形の割引とは、手元にある手形を期日前に金融機関に持ち込み、一定の割引料を支払って金融機関に買い取ってもらうことである。
- (2) 当座貸越は一度契約をしていれば、限度額までは自由に借りられるが、金融機関の審査が他の調達方法に比べて厳しいということが挙げられる。
- (3) 金融機関サイドからみると、長期借入金は、期日が到来して更新をするたびに、取引先の資金状態を知ることができるというメリットがある。

正解 (3)

正解率 70.4%



解 説

(1) 手形の割引とは、手元にある手形を期日前に金融機関に持ち込み、一定の割引料を支払って金融機関に買い取ってもらうことである。したがって (1) は正しい。

(第2分冊 80 ページ【第2章 4. 流動資金の運用と調達のバランス (5) 営業運転資金の調達方法②手形の割引】)

(2) 当座貸越は一度契約をしていれば、限度額までは自由に借りられるが、金融機関の審査が他の調達方法に比べて厳しいということが挙げられる。したがって (2) は正しい。

(第2分冊 81 ページ【第2章 4. 流動資金の運用と調達のバランス (5) 営業運転資金の調達方法③当座貸越】)

(3) 金融機関サイドからみると、短期借入金は、期日が到来して更新をするたびに、取引先の資金状態を知ることができるというメリットがある。したがって (3) は誤りであり、これが本問の正解である。

(第2分冊 83 ページ【第2章 4. 流動資金の運用と調達のバランス (5) 営業運転資金の調達方法④短期借入金】)

財務指標での管理

[問50] 財務指標での管理に関する次の記述について、正しいものはいくつあるか、(1)～(3)の中から1つ選びなさい。

- a. 売上債権管理の前提として、締め日、期日、支払方法、手形のサイトなど得意先との取引条件を明確にしておくことが必要である。
 - b. 常時必要な農薬や肥料は豊富に手元に置いておくことにより、機動的に利用でき収穫に直結するため、資金繰りに余裕が持てる。
 - c. 売上割引とは、回収条件として決めた期日より早く代金を払ってくれた得意先に対して、その早かった日数に応じる利息分をディスカウントすることをいう。
- (1) 1つ
(2) 2つ
(3) 3つ

正解 (2)

正解率 74.1%



解 説

a. 売上債権管理の前提として、締め日、期日、支払方法、手形のサイトなど得意先との取引条件を明確にしておくことが必要である。したがってa. は正しい。

(第2分冊86ページ【第2章4.流動資金の運用と調達バランス(7)売上債権や在庫を少なくするためには①取引条件を明確にしておく】)

b. 常時必要な農薬や肥料を豊富に手元に置いておくということは在庫が増えることになり、資金繰りはどんどん厳しくなっていく。したがってb. は誤りである。

(第2分冊84ページ【第2章4.流動資金の運用と調達バランス(6)財務指標で管理】)

c. 売上割引とは、回収条件として決めた期日より早く代金を払ってくれた得意先に対して、その早かった日数に応じる利息分をディスカウントすることをいう。したがってc. は正しい。

(第2分冊86ページ【第2章4.流動資金の運用と調達バランス(7)売上債権や在庫を少なくするためには①取引条件を明確にしておく】)

したがって正しいものは2つあるので、(2)が本問の正解である。

正解一覽表

問題	正解								
問 1	1	問11	3	問21	3	問31	1	問41	2
問 2	3	問12	1	問22	2	問32	3	問42	3
問 3	2	問13	1	問23	2	問33	1	問43	2
問 4	3	問14	2	問24	3	問34	2	問44	2
問 5	2	問15	2	問25	3	問35	1	問45	1
問 6	1	問16	1	問26	1	問36	1	問46	2
問 7	1	問17	3	問27	3	問37	3	問47	3
問 8	2	問18	2	問28	3	問38	3	問48	1
問 9	3	問19	1	問29	1	問39	2	問49	3
問10	2	問20	2	問30	2	問40	1	問50	2